

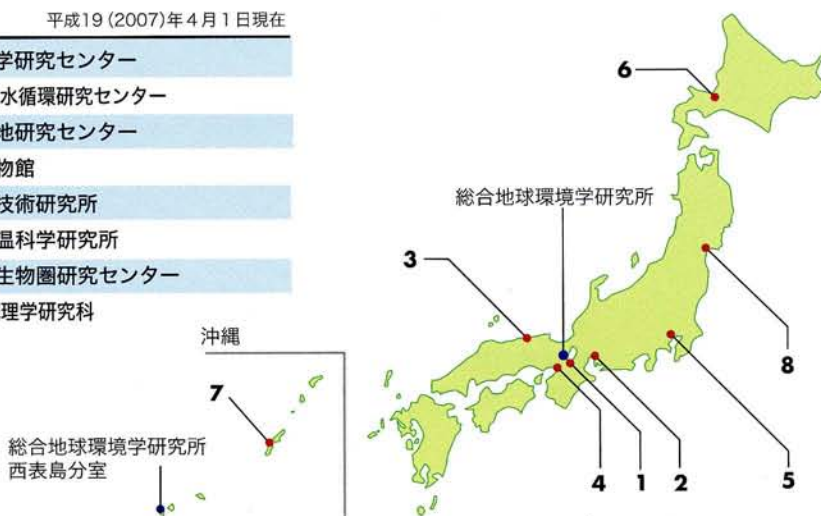
● 国内外の研究連携 ●

■ 流動連携研究機関

地球研では、以下に示す全国8つの大学研究機関等と連携を図って研究を進めてきました。これら8つの研究機関からは、協定に基づき複数の教員が期間を定めて地球研の教育研究職員として出向き研究しています。

流動連携研究機関 平成19(2007)年4月1日現在

1. 京大大学生態学研究センター
2. 名古屋大学地球水循環研究センター
3. 鳥取大学乾燥地研究センター
4. 国立民族学博物館
5. 東京大学生産技術研究所
6. 北海道大学低温科学研究所
7. 琉球大学熱帯生物圏研究センター
8. 東北大学大学院理学研究科

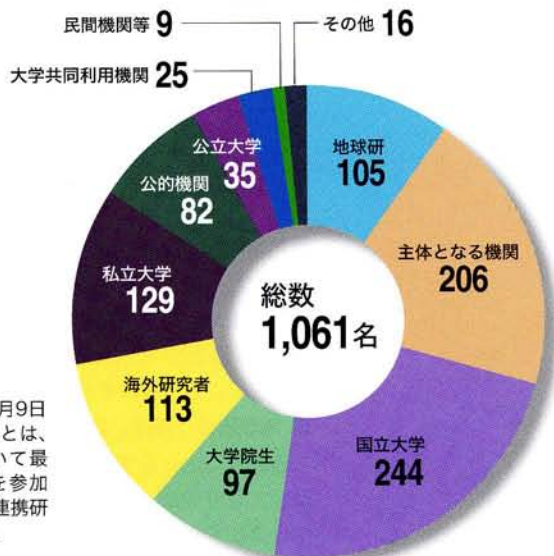


■ 覚書及び研究協力協定の締結

地球研ではプロジェクト研究を国際共同研究として積極的に推進するため、南開大学、河海大学、中国科学院寒区旱区環境と工程研究所、中国社会科学院民族研究所、ロシア科学アカデミー極東支部などの海外研究機関および当該国を代表する研究組織との間で覚書を締結しています。そのほか、フランス国立人文科学館、雲南大学、ラオス国保健省、チェンマイ大学など多くの研究所、研究組織との間でプロジェクトリーダーのレベルでの研究協力協定を締結しています。また、2006年10月にはパンジャブ大学、2007年3月にはザンビア農業協力省農業研究所と新たに締結をいたしました。

● 平成19年度 研究プロジェクト共同研究者の構成比率 (PRを含む) ●

地球研は大学共同利用機関として、地球環境学に関わる多くの分野・領域を横断する総合的な共同研究を推進するため、我が国の大学をはじめ、各省庁、地方公共団体（公的機関）や民間の研究機関、さらには海外の研究機関と密接な連携を図ります。



※平成19(2007)年4月9日現在。主体となる機関とは、各プロジェクトにおいて最も多くの共同研究員を参加させている中核機関（連携研究機関を含む）である。

研究推進センターの活動

研究推進センターは、地球研の基本理念に基づき、既存の学問分野の枠組みを超えた新たな視点を見出すための基盤作りを行うことを目的に設けられました。

人間文化研究機構の中期計画では、「地球環境学に関する情報の収集・分析、成果の発信並びにこれらに関する研究を行うために研究推進センターを整備する」とうたわれています。

研究推進センターでは、「発信の企画」や「情報の提供」、「手段の提供」を、地球研および「地球環境学」への具体的な活動としています。

■ 発信の企画

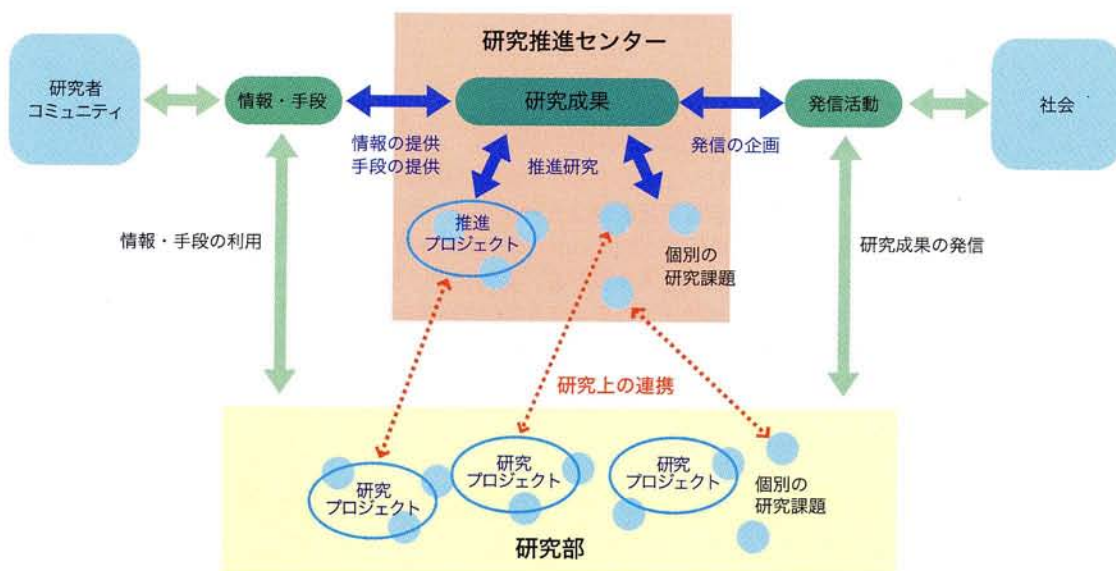
地球研の研究活動の成果やその意味するところを広く伝えるための「発信」を企画するものです。地球研フォーラムや地球研市民セミナー、地球研叢書、地球研ライブラリーなどの企画や実施に関わっています。昨年度は地球研のニュースレターとして『地球研ニュース』(Humanity & Nature Newsletter)を創刊、隔月刊で1-6号を発行しました。

■ 情報の提供

研究に必要な情報をデータベースなどで研究プロジェクトはじめ所内外に提供するものです。各種の情報の収集もおこなっています。

■ 手段の提供

観測・分析機器の提供やその利用の高度化をめざすものです。実験施設の運営も担当しています。



推進プロジェクト

以上の活動をさらに発展させていくために、地球研の研究プロジェクトや内外の研究者らとの共同研究として、昨年度より次の「推進プロジェクト」をすすめています。

■ 学際研究の方法・成果を蓄積・再利用するための方法論の構築

「環境」に関連した学際研究の研究手法や研究成果を体系的に残し、次世代の研究の発想や研究計画に活かすための方法論を構築します。また、構築された方法論を運用するための基盤として、学際という研究手段がもつさまざまな問題について検証を行い、構築された方法論が適用可能な範囲やその実効性について検討を加えます。

■ 地球研の「発信」推進のための調査・研究

地球研における学問研究の意味するところや研究成果を内外の研究者のみならず社会に発信し、理解してもらうにはどうすればいいかを調査・研究します。その手段や方法を検討し、「発信」戦略をはじめとする具体的な「発信の企画」を示していきます。